

長身204センチ 東京五輪アタック

バレーボールを始め約5年の20歳が、2020年東京五輪のエース候補として期待されている。愛院大3年のセンター山内晶大（あきひろ）は2メートルを超える長身を買われ、4月に初めて日本代表入り。5月に始まったワールドリーグ（WLI）ではこれまでの全8戦で先発起用されている。

（斎藤正和）

204センチ、75キの細身から、外

国人選手相手に打点の高いスパイクを打ち下ろした。アウエーの6戦と、14、15日に愛知県小牧市で行われたアルゼンチンとの第7、第8戦で先発した山内は「初戦に比べたら徐々に（チームに）フィットできてきているけれど、まだまだ機能できていない」と反省を口にしたが、身長はぐんぐん伸びた。2

愛院大・山内 バレー歴5年 日本代表



月に就任した南部正司日本代表監督に見いだされ、本人も「本当とは思わなかった」というサブライズ選出となった。

WLIで国際試合を初経験。世界ランク7位のアルゼンチン、同10位のドイツなど強豪に苦戦したが、「いい経験になっている」と話す。エース福沢（パナソニック）らと行動を共にして意識も向上。栄養士にアドバイスをもらい、代表入り後に体重を3キ増やした。それでも「85キは欲しい」と、外国勢に負けないパワーを付けようと励む。

キャリアが浅く技術的に粗削りだが、その分伸びしろは大きい。南部監督は「使ってあげば必ず中心選手になる」と太鼓判を押す。山内も首脳陣の期待を受け止め、「東京五輪に照準を合わせて体づくりをしたり、経験を積んだりしたい」と明確な目標を掲げる。ロンドン五輪出場を逃した男子の切り札的存在だが、6年後に向けて大きく歩み始めた。

南部監督に見いだされ、将来の日本のエースとして期待が集まる山内晶大。愛知県小牧市スポーツ公園総合体育館で